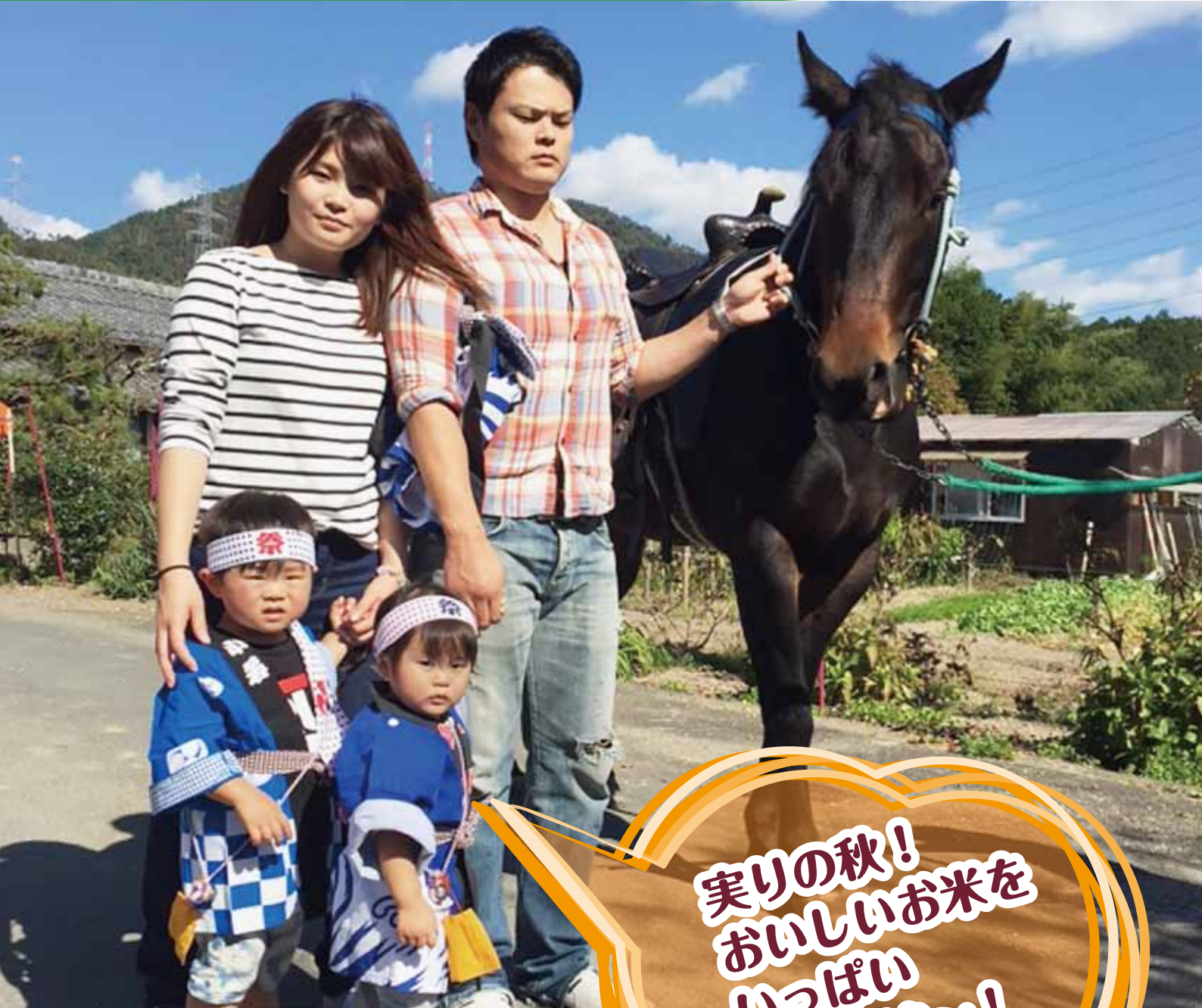


# なんたん

No. **28**

農業委員会だより

平成27年11月号



実りの秋!  
おいしいお米を  
いっぱい  
食べるぞ〜!

農業委員会のうごき	2~3
地域農業を支える	4
まちかど通信	5
特集	6~7
なんたんあっちこっち 他	8

発行 南丹市農業委員会

編集 南丹市農業委員会広報委員会

TEL.0771-68-0067 FAX.0771-63-0654

〒622-8651 京都府南丹市園部町小桜町47

E-mail: [co-nougyou@city.nantan.kyoto.jp](mailto:co-nougyou@city.nantan.kyoto.jp)

URL: <http://www.city.nantan.kyoto.jp/www/resource/nougyou.html>

# 農業委員会へのびびり



「荒廃農地調査」及び「農地パトロール」を実施しました。

11月6日（金）から12日（木）に「荒廃農地調査」及び「農地パトロール」を実施いたしました。昨年度の耕作放棄地や、無断転用、遊休荒廃地の早期発見また、農地法に基づく許可等を受けた土地については、申請（届出）の内容どおりに利用されているかを確認しました。今後、調査結果を取りまとめ、必要に応じて通知等させていただきます。

## 農業委員会法の改正について

※平成28年4月1日から施行。

改正農業委員会法等を含む「農業協同組合等の一部を改正する等の法律案」が、平成27年8月28日に成立し、同年9月4日に公布されました。

この改正により、農業委員会が、その主たる使命である、農地利用の最適化（担い手への集積・集約化、耕作放棄地の発生防止・解消、新規参入の促進）をより良く果たせるようにします。

### 農業委員会業務の重点化

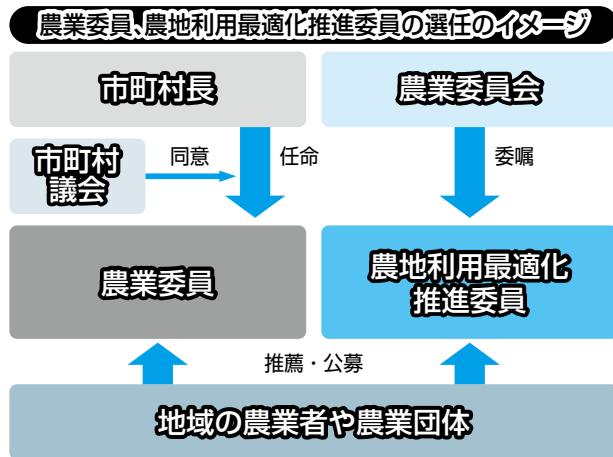
- 農業委員会の業務の重点は、農地利用の最適化の推進であることを明確化

### 農業委員の選出方法の変更

- 地域の農業をリードする担い手が透明なプロセスを経て確実に就任するようにするため、市町村議会の同意を要件とする市町村長の任命制に変更

### 農地利用最適化推進委員の新設

- 農業委員とは別に、各地域において農地利用の最適化を推進する農地利用最適化推進委員を新設



☎ 0771 (68) 0067

発行日 毎月4回 金曜日  
購読料 月額700円  
申込み 南丹市農業委員会 事務局へ

農業経営と暮らしに役立つ農業総合専門誌です。  
全国47都道府県にある支局の充実により、地域の元気で特徴ある明るい話題や地域独自のイベント情報などご紹介しています。



全国農業新聞を購読しませんか!



# 建議書の提出

## 提出

平成27年10月19日に、南丹市長に對して建議書の提出を行いました。

建議書の内容は、農業委員会（農政部会）で審議を重ね、「生産者米価の補填と地域実情にあった農業支援」「農地を守る取組に関連した特産品づくり」「有害鳥獣の駆除対策」についての3項目に絞った内容となっております。



▲佐々木市長に建議書を手渡す  
野中会長と大沢職務代理と上田農政部会長

### 【建議書の内容（抜粋）】

政府は、強い農業と美しい活力ある農村の創出を目指しているが、一般の農業改革の中で強い農業だけが生き残り、多くの家族経営農業が集落からなくなってしまうことが懸念される。結果として、地域社会が維持できなくなれば地方の衰退に拍車がかかることが予想される。

本市においても、米価の変動により、農業経営の不安定化を招き、耕作放棄地の増加が危惧される所であり、あわせて従来からの懸案である、農業従事者の高齢化に伴う担い手の減少や後継者不足、有害鳥獣被害など、もはや既存の施策制度では維持、対応が困難な状況に直面しているところから積極的な各種施策の創設、推進が必要となっている。

つきましては、市におかれましても財政厳しい折とは存じますが、関係機関と緊密な連携を図られ、予算確保ならびに上部機関などへ具申をされますよう、建議いたします。

#### 1. 生産者米価の補填と地域実情にあった農業支援について

安定的な所得確保ができてこそ農業や農地が維持でき、今の景観を守ることができる。引いては新たな担い手も生まれてくる。

そこで、国および京都府に対して米の直接支払交付金制度の恒久化や増額を要望したい。また、米の収入減少影響緩和対策の対象を販売農家すべてに拡大されるよう要望されたい。

また、将来的な農村・農業を守るために、それぞれの地域実情にあった市独自の支援制度を創設願いたい。

#### 2. 農地を守る取組に関連した特産品づくりについて

平成21年から美山町で始まったホンモロコ養殖は、遊休農地の解消と特産品開発を兼ね備えたものであり、設備投資があまりかからず、高齢者でも飼育と管理が可能である。

当市の生産者は現在数名だが、高齢化が進む山間地の活性化につながる取り組みであり、市のブランド産品への指定や販路開発、設備費助成など、地域の特産品づくりの取り組みに対し、強力な支援を行われたい。

また、家庭環境の変化により子供が農業に接する機会がなくなってきた中、郷土愛を育み食育・食農教育を推進するため、次代を担う子どもたちへの農業体験学習を通じて、農業への理解促進に寄与する学校教育事業について更なる積極的な支援を行われたい。

#### 3. 有害鳥獣の駆除対策について

あらゆる手立てを尽くしてもなお終息がみられない被害に粘り強く対策を講じていくためには、捕獲の大幅強化と恒久防護施設の整備や広葉樹の森づくりの推進について積極的な取り組みをされたい。

特に、サルについては篠山市の方から群れが来て農作物被害を起こしているの、篠山市との連携を要望するとともに追払い費用の支援を行われたい。

また、捕獲した動物の処理に悩む地域は全国的にも多く、南丹市も例外ではない。

そんな中、シカについては、肉の利活用が新たな特産品として注目され、民間事業者での取り組みも始まってきているが、捕獲後の運搬や不要となる部位の処理などの課題もあるため、今後、京都府においてシカの処理・加工施設が整備されるよう、要望されたい。



農事組合法人 大西宮農組合 代表理事 梅木 章夫 さん



大西集落は、高齢化の進行が著しく準限界集落といわれる総戸数44戸、農家戸数37戸の集落で、農地の面積は30haのこじんまりした地区です。 営農組合は農家全員が参加しており、皆で協力して大西の農地と農業を守っていくことが活動しています。

ほ場整備（昭和59年）で造成された美田を生かし、転作にも対応するためブロックローテーションによる牧草、レンゲなどを導入してきましたが、現在は、米9haの他、小麦4・9haその後作に黒豆と小豆を1・8ha栽培しています。これらは、農地中間管理事業を活用し、法人で約13ha、地区の若手担い手が約2haと集落の50%の利用権を集積して行っています。

集落営農を長年続けてきた中で、このたび法人化に踏み切ったのは、最大の課題である後継者や人材の育成には法人化した方がいいのではな



# 地域農業を支えるあの人のこの団体！

地域農業の発展を目指し、力強く活動されている団体や個人の農業者をシリーズで紹介します。



いか。また、経営の合理化が図れ、公的な支援も受けやすいのではないかなどが決め手になりました。

法人として発足したばかりで、どうすればよいのか、手探りの状況です。農地が法人に集積されても法人に職員を雇うほどの甲斐性はなく、どの作業にも組合員の積極的な協力なしにはやっていけません。また、目下のところ経営の安定化が最大の課題です。

今後とも皆様のご指導をよろしくお願ひします。

## ココカラカフェ “ご機嫌に暮らしたい”

開催日時：毎月第二火曜日 午前9時から11時30分まで  
 場 所：八木町 本郷コミュニティセンター  
 参加費：実費（300円から1,000円ぐらい）  
 世話人：石川さん・中西さん・掘下さん・芝原さん



ここから多くの方々の健康長寿を目指し、みんなで楽しく健康づくりに取り組み、5年後、10年後も機嫌よく自立した生活が送れるようにしていきたいと思っています。



（手記／芝原さん）

カフェをオープンして4年7か月、地域の絆づくりを目指し、有志でオープンしました。「この場所にくれば、だれかがいて話しが出来る。」そんな憩いの場所になれたらいいなと思っではじめました。回を重ねるにつれて参加者同士の気心も知れ、笑いが絶えることはなく、毎回10数名の方が参加されています。カフェでは、まず健康チェックで血圧測定をし、それから様々なメニューに入ります。健康づくりが中心で、筋トレや食事の事、睡眠、心の健康づくり、笑いヨガ、手作業など、実技や講話などで学習しています。

年齢と共に起こる不快症状や、不調などを改善し、自分に合ったセルフケアを学ぶため、アロマオイルを使ったマッサージなどもとり入れています。

声があがりました。同時に川の流れをせき止めて水を引く大変さに気がきました。そしてその水が8キロメートルの道のりを流れ、広い農地を潤していることを知り、さらに、水路を通すために、370メートルもの隧道が掘られていたことに驚きました。



### 南丹市立園部第一小学校（5年生） 『郷土の水路を訪ねて』

5年生の子どもたちは、『考えよう！人と環境』をテーマに、地域の環境保全について学習を進めています。一学期には、水路や水田が、水や空気を浄化し水を蓄える働きをしていることやその環境が崩れてきていることを知りました。

そこで今回、川辺地区の船岡農地・水・環境保全向上対策委員会と連携し「大西井堰」と「隧道」の見学調査を行いました。

旧川辺小学校を出発し、まず、大西井堰を見学しました。水門が開いて、大量の水が水路に流れ込む様子に歓声があがりました。同時に川の流れをせき止めて水を引く大変さに気がきました。そしてその水が8キロメートルの道のりを流れ、広い農地を潤していることを知り、さらに、水路を通すために、370メートルもの隧道が掘られていたことに驚きました。

見学後は大堰川の河原で、きれいな水に生息する生き物を調査しました。土地改良区や南丹市農政課など多くの方にもお世話になり、自分たちが生きる郷土のよさを実感する素晴らしい学習となりました。

本年度から新たにスタートした園部第二小学校にとって、宝物となる大切な地域学習になりました。

（手記／園部第二小学校 日下部正登 教頭）

次に、船岡の「大將軍隧道」を訪れました。

そこで、この隧道建設に尽力した「内藤良助翁」の苦勞と功績を聞き、実際に隧道内を歩いて調査しました。懐中電灯を手に、腰をかがめながら歩く調査は、さながら洞窟探検のようでした。壁面は、人の手で掘り進んだ跡がよくわかります。

「昔は機械もなく、危険な中、固い岩を人の手で掘ったなんて想像できない。」子どもたちは、先人の苦勞を実際に自分の肌で感じる事ができた様子でした。



# 特集



農業委員会 農政部会  
部会長 上田 純二

## 農業委員会 農政部会の取組み

私たち農業委員会に何ができるのか、農政部会の中で意見を交わしています。地域に合った農業支援の必要性や、有害鳥獣の駆除対策、農地を守るための特産品の開発支援等、活力ある農業地域を守るよう努力していきたいと思っています。

食べることに苦労された年代の人は、現在をどう思っておられるのでしょうか。これが時代の流れと言ってしまうばそれまでのことです。が、祖先から受け継いできた大事な農地だからこそ、勘定度外視で守って来られた人がたくさんおられると思います。

米価の変動により、農業経営の不安定化を招き、耕作放棄地の増加が危惧される中、鳥獣被害も深刻で耕作意欲をなくす大きな課題となっています。しかし、守るべき農地は放棄地にはなりません。

毎月の農政部会では、農業振興に関わる様々な議案について検討をしています。

(例)

- 建議(案)の検討・作成
- 農業委員研修の計画
- 農業者や市議会議員との意見交換会の計画・実施
- 農業者年金の加入推進 など

## 農業委員 研修会

担当地域の農地・農政に関する相談にお役にたてるよう制度に関することや、事例研修などを行っています。



11月5日に農業委員の研修会を実施しました。



田の面積よりも畔の面積が大きい典型的な中山間地域で、ホinomokoの養殖と加工を行い農村を守る地域があります。集落で多くの田が保全管理となり頭を悩ませていた地域で様々な対策が講じられていました。水中植物ならうまくいくと考え、レンコンを栽培したが圃場整備田は床が固く、根が張らないため失敗。中山間地事業を活用しフキの加工事業を始め、今も販売されていますが、冬場になると仕事がなく困っていたことから、農地転用の許可を得て4年前よりホinomokoの養殖を始め、冬場でもホinomokoの佃煮作りをやるようになり、一年中加工品づくりで頑張っておられます。

農地は守らなければならないが、農業機械がない、高齢になり農作業は困難など耕作に苦慮している方も多し中、ホinomokoの養殖は、自然の水が田に入ればできるので、農地転用の許可を受ける必要はありませんが、農村を守る対策の一つとして成果をあげていると思います。

## 『農村を守るためのホinomokoの養殖と加工』

管内視察研修「京都美山漁業協同組合」

**農業委員  
(吉田陽子委員)  
が食育先生として  
活動しています。**

日直

殿田小学校の3、4年生の児童を対象に、食育活動の一環として「黒大豆枝豆」の種まきから黒豆にするまでの作業等を、農業委員の吉田陽子委員が先生となって取組んでいます。

児童は、6月に種をまき、その後生長過程の観察をするなどし、10月には枝豆をもぎ取り、選別作業をしました。

今後は、残った株を切り取って稲木掛けをし、乾燥後に黒大豆をさやから取り出し、豆の選別などを行います。

農業委員は、地元農業に関する様々な場面で活動しています。



**安心して農地の貸し借りを!**

**利用権設定**

◎ご存じですか? 『利用権設定』

利用権設定とは、「農業経営基盤強化促進法」に基づいた農地の貸借で、農地所有者が安心して、意欲ある農業者に農地を貸すことが出来るようにするための事業です。

貸し手と借り手で決めた期間が終われば、貸借関係は終了します。その後、所有者が耕作することもできますし、再度申請手続きをすることで引き続き、借り手農業者が耕作することもできます。

利用権設定するにあたり、農地法の許可が不要で、手続きに必要な添付書類などが簡素になっています。

貸し借りをを行う農地の情報は、農業委員会が管理します。

貸し手と借り手で話がまとまれば、農業委員会事務局に申請に必要な書類を各月の提出期限日までに提出してください。

※農地の場所や設定状況などによって、添付書類が異なったり、農業委員会への出頭が必要となる場合があります。

**農業・農村の応援団募集!**

**『援農隊』に参加しませんか**

農家や農村を助ける『援農隊』に参加し、空いた時間の有効活用に、農作業をしてみませんか。  
農業・農村の応援団として、農家のお仕事を手伝ってみませんか。  
農業や農村に興味のある方!  
丹精込めて作物を作る農家の方々に助け、様々な実りの為に、あなたの力を農作業で発揮してください。  
※『援農隊』として、農作業のお手伝いをしていただいた方には、農家の方からお礼(農産物など)もあります。

**問合せ相談先**

**興味のある方ぜひお電話ください!**

- NPO法人 日本都市農村交流ネットワーク協会 TEL (080) 3853-5686 (担当: 中村)
- 京都府流通・ブランド戦略課 TEL (075) 414-4954

なんたん

# あっちこっち

とにかく広い南丹市。

南丹市のあちらこちらでは、その地域ならではの面白く、楽しい、また興味深い取り組みがされています。

そんな南丹市の、あっちこっちのできごとを紹介します。



## 日吉神社「馬かけ」 (日吉町胡麻)



日吉町胡麻地区にある日吉神社では、秋の収穫がひと段落した毎年10月第3日曜日に「馬かけ神事」が行われます。「厄払い」と「五穀豊穣」を願う伝統行事で、南丹市の無形文化財に指定されています。

祭りは、祭礼前夜に宮ごもりをして、祭事を務める馬場量(馬場を清める役)、神馬(鎧をまとった武将)、騎手(袴を着た若衆)、射手(着物姿の女形)が「七色の膳(梨・ぜんざい・栗・枝豆・菓子・かまぼこ・甘酒)」を食べることから始まります。やがて、午前零時になると馬場量が弓を持って東胡麻地区を巡拝し、翌日の早朝6時に身を清めた馬場量、神馬、騎手、射手、矢取りの稚児らが馬に乗り、胡麻地区を巡拝します。

巡拝を終え午後2時からは、神馬、騎手、射手が乗る馬が日吉神社前の馬場を駆け抜け、スギ板の的を目掛けて矢を放ち、厄除けを祈ります。

また巡拝の後は、胡麻郷小学校の金管バンドや地元の子ども神輿、地元商店有志の方々などが、行事の盛上げ隊となって賑わいの場を作っていました。

地元の大人や子どもだけでなく、この地を離れて暮らす子や孫も楽しみにしているこの行事には、多くの方々が毎年集います。今年もこの日は、秋晴れに恵まれ、笑顔あふれる賑やかな日となりました。

(取材：谷口定己委員)

## 委員ぶらり旅

旅人：梅津義明 委員

### 高野山を訪ねて

秋色に染まる美山の里、由良川の流れを包み込むように朝露がたちこめる早朝、開創1200年の記念事業に沸く高野山に向かいました。約5時間かけてつづら折りの上り坂に入る頃、道の両側には柿やみかんが手の届きそうなところに連なっていました。

高野山は、平安時代に弘法大師空海が開いた真言宗の総本山です。1131年に建立された金剛峯寺や、奥之院を中心に2004年7月に紀伊山地の霊場と参詣道としてユネスコ世界文化遺産に登録されました。

大塔、金堂をはじめ諸堂が集まり建っている所を「壇上」と呼び、西の「壇上伽藍」東の「奥之院」は、高野山が開かれた当初から二大聖地となっています。



写真：中門より金堂と大塔を望む

## 編集後記

南丹市日吉町胡麻では、五穀豊穣を祈願する「日吉神社の流鏝馬」が行われています。古式に習い深夜から神事を行い、翌日早朝より清水で禊を済ませ朝露に包まれた町内十三社を巡拝する風景はおごそかでした。

(谷口定己 委員)